

ナスの害虫の発生に注意しましょう !!

気温の上昇とともに、アザミウマ類、コナジラミ類などの微小害虫の発生が増加してきます。多発生となつてからでは防除が困難になりますので、**早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。**

被害の特徴

1 アザミウマ類(ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ)

葉や花弁、へたなどを加害しますが、アザミウマの種類によって加害部位が異なります。葉にかすり状の傷ができ、激しい場合は茶褐色に変色し落葉します。果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じて、商品価値を著しく低下させます。

2 コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)

葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだします。直接吸汁することによる生育抑制と、排泄物によるすす病が発生します。

3 アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)

主に葉裏や葉の先端部に寄生します。多発生すると葉の表面に脱皮殻やすす病によるすすが付着し、生育が抑制されます。また、**各種のウイルス病を媒介するので、注意が必要です。**

4 ハダニ類 初期は下葉に寄生しやすく、主に葉の裏に寄生します。

葉の表は脱色してカスリ状に変色します。

5 チャノホコリダニ

生長点付近に寄生すると葉が奇形となる他、葉の裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込み、激しい場合は芯止まりになります。果実は、ガクや果梗部分に変色し、果面がサメ肌状になります。**一度芯止まりになると回復に長期間を要します。**

6 オオタバコガ、ハスモンヨトウ

オオタバコガの若齢幼虫では新芽や花を食害しますが、すぐに果実内へ食入します。次々と新しい果実に移動し、茎の中にも潜入します。ハスモンヨトウは、主に葉を食害します。

7 ハモグリバエ類 幼虫が葉肉内に食入する被害(いわゆる「絵かき虫」)で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなります。



アザミウマの被害 タバココナジラミ成虫* オオタバコガ幼虫* ハモグリバエの被害
(* 出典：茨城県病害虫防除所)



アブラムシ類 ハダニ類



チャノホコリダニ

表1 ナス生育期における各種害虫の主な防除薬剤

(令和7年6月30日現在)

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	分類
アグリメック	○	○		○					6
アタブロン乳剤	○ミナミキイロ					○	○		15
アフーム乳剤	○	○		○	○	○	○	○	6
ウララDF	○ミカンキイロ	○	○						29
カネマイトフロアブル				○	○				20B
カスケード乳剤	○ミナミキイロ			○		○		○マメハモグリバエ	15
グレーシア乳剤	○	○		○	○	○	○	○	30
コテツフロアブル	○ミカンキイロ・ミナミキイロ			○	○	○	○		13
コロマイト乳剤		○		○	○			○	6
スタークル粒剤		○	○						4A
コルト顆粒水和剤		○	○						9B
スターマイトフロアブル				○	○				25A
ディアナSC	○	○				○	○	○	5
トルネードエースDF						○	○		22A
ファインセーブフロアブル	○	○タバココナジラミ類							34
プレオフロアブル	○					○	○	○	un
プレバソフフロアブル5						○	○	○	28
ベストガード水溶剤	○ミナミキイロ	○	○						4A
マイトコーネフロアブル				○					20D
モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○						4A
モベントフロアブル	○	○	○	○	○				23

注)1. 表中のミカンキイロやミナミキイロは(アザミウマ)を略して表示しました。

注)2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。

■ 営農 NEWS は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部 営農支援課 電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040